

# 持続的な成長と利益向上のターボチャージャーとして、 アライアンスを最大活用

前途有望であると同時に厳しかった2016年度を乗り越え、2017年度、三菱自動車は通期予測を上回る業績を達成し、迅速且つ力強い回復を遂げました。既に発表しましたように、当社は中期経営計画「DRIVE FOR GROWTH」をスタートさせ、全社を挙げて「お客様の信頼回復」「業績をV字回復の軌道に乗せること」、そして「持続可能な成長を始める」という主要目標の達成に向けて取り組んでいます。アライアンスは2017年度を通じて、本活動の実現と加速化を支えてきました。

2017年、ルノー、日産自動車、および三菱自動車は、グローバルで1,060万台以上を販売し、アライアンスは乗用車・小型商用車で世界最大の自動車グループとなりました。2018年には、1,100万台を上回る販売を見込んでいます。更に、2022年末までに、グローバルで年間1,400万台の販売と総売上高31兆8,000億円の達成を計画しています。

規模は成功の必須条件ではあるものの、十分条件ではありません。忍耐強く、考え抜かれた機能統合の戦略を実施し、アライアンスの持つスケールを活かし、アライアンス・メンバー各社の競争優位性の向上を図ります。

2018年3月には、購買、研究開発および生産・サプライチェーンをはじめとする分野の機能統合を加速化させました。本活動は、メンバー各社の自主性を守ると同時に、様々なメリットを三菱自動車にもたらしています。

例えば購買については、2017年、ルノー、日産自動車、三菱自動車の3社は、16兆円にのぼる共同購買を実施しました。当社は、日産自動車と購買のベンチマーク（比較評価）、アライアンスの持つベスト・プラクティスの採用、および鋼材、樹脂、油脂をはじめとする原材料の共同調達を通じて、原価低減を実現しました。

生産については、今年度中に当社のインドネシア工場、三菱『エクスパンダー』をベースとした日産車の生産を始める予定です。今後も、生産工場の共用を進めていきます。

研究開発の分野では、日産自動車と共同で、次世代の軽自動車の開発に取り組んでいます。本活動により、開発費および投資の削減を実現しました。更に、三菱自動車の持つアセアン地域における開発、購入部品および物流のベスト・プラクティスを提供することで、アライアンスに貢献しています。今後、当社のプラグインハイブリッド技術も、アライアンスで共用する予定です。

アライアンス機能統合の加速に加え、機能統合の対象を、小型商用車、事業開発、アフターセールス、品質、トータル・カスタマー・サティスファクション(TCSX)等、新たな領域にも拡大しています。

以上の活動の結果、2017年度の当社の営業利益に占めるアライアンス・シナジー（相乗効果）の割合は28%に達しました。今後も、アライアンス・メンバー3社が「アライアンス2022」の達成に向けて取り組む中、三菱自動車は、成長と利益に直結するシナジーを引き続き享受していきます。

「アライアンス2022」が終了する2022年末までに、ルノー、日産自動車、三菱自動車の3社で900万台を超える車両を共通プラットフォームで生産するとともに、エンジンの3分の2をルノー、日産自動車、三菱自動車で共用する計画です。次世代技術や様々なイノベーション(革新)の共有も進めていきます。一度開発したものをメンバー各社で分かち合うというアライアンスの精神のもと、各社の研究開発の成果をアライアンス全体で活用していきます。2018年度の当社の研究開発費は1,220億円を想定していますが、同時に、2022年末までにアライアンス全体で計画している6兆6,000億円相当の研究開発が生み出す幅広い技術も採用することができるのです。

三菱自動車の将来には自信があります。アライアンスは引き続き、三菱自動車、日産自動車およびルノーの成長と利益の向上のスピードを上げるターボチャージャーとしての役割を果たしていきます。これまでも着実な進歩を遂げてきましたが、やるべきことは山積しており、メンバー各社はそれぞれの業績の責任を負って臨んでいます。

アライアンス各社が力を合わせることで、より多くのより良い結果を生み出すことができます。より多くの、より良い商品・サービス・技術を提供し、より多くのより良いビジネスチャンスを勝ち取ることができます。更に、重複作業をなくし、各社の能力・資源を持ち寄り、コストを回避し、売上のチャンスを拡大することを通じて、効率化を図ります。双方が得をする数々のウィン・ウィンの解決策が、今後も三菱自動車の成長と利益の向上に寄与するでしょう。

アライアンスの力と、三菱自動車の従業員ひとり一人の努力を持ってすれば、「DRIVE FOR GROWTH」を達成できると信じています。

2018年8月



取締役会長  
カルロス ゴーン

A handwritten signature in white ink, reading "Carlos Ghosn".